

待降節 2017年



私は神をあがめ、私の心は神の救いに喜びおどる。神は卑しいはし
ためを顧みられ、いつの代の人も
私を幸せな者と呼ぶ。

最も親愛なる姉妹の皆様

私は、この待降節を喜んで導きたいと思います。教皇フランシスコは、使徒的勧告福音の喜びと共に、それを私たちのキリスト教的生活の中心におくよう呼びかけました。「福音の喜びは、イエスに出会う人々の心と生活全体を満たします」（福音の喜び1）。この文章を初めて読んだとき、私に多くの影響を与えました。それは、「満たさなければならぬ」あるいは「時には」と言うわけではなく、確かに「満たされます」。私たちは、今明確な宣言として「はい、満たされます」と答えられるでしょう。イエスとの出会いがある場合、これは喜びで満たされます。

私たちは、以下のことを質問することができますでしょう。福音の喜びが、私の心と生活を満たしていますか。福音の喜びを生きる代わりに、時々私たちの生活をよりいっそう充実させるようにみえる他のことを求めるならば、どうなりますか。例えば、ストレス、心配、疲れ、要求、完璧主義、など。各々が私たち固有の「寄生虫」を持っています。確かに、もし私たちがその小さな課題に取り組むならば、私たちは「福音の喜び」を回復する必要性を感じるでしょう。

したがって、この喜びがイエスとのパーソナルな出会いから来て、誰かが私たち固有の生活を放棄して新たになるならば、待降節は、その体験とその喜びに自分自身を開く特権的な時です。つまり近づいて来られる神からの喜びです。生きておられる神は、ますます近づいて来られます。

私たちは、救い主の来臨を待ち望む喜びに開放された待降節を過ごしましょう。神は「変化がなく、単調なお方ではありません」し、「繰り返す」こともありません。したがって、クリスマスの荘厳さに対する私たちの準備は、私たちを取り巻く現実に対する単調な精神または傾聴できないものであってはなりません。私たちの母は、兄弟を抱きしめながら、主の馬小屋を作るために働く私たちの腕となって私たちを助けてくださいます。

姉妹的愛と私の祈りを込めて、

総長 ソール マリア アスンシオン ゴンザレス, O.P.